

公開シンポジウム

これからの教育政策のゆくえ—CSTI 教育・人材育成ワーキンググループ「政策パッケージ」をめぐって—

CSTI 政策パッケージを考える

中嶋哲彦（愛知工業大学教授）

1. 教育政策の決定過程

(1) 中央教育審議会による教育政策の審議 【文科省主導の教育政策決定】

(2) 他の政策領域・課題の従属変数としての教育政策

【他府省主導の教育政策・他府省の政策への従属】

(3) 政権中枢主導の教育政策 【国家戦略としての教育政策】

臨時教育審議会

教育再生実行会議・教育未来創造会議

「重要政策に関する会議」 … 経済財政諮問会議、科学技術・イノベーション会議

(4) 教育政策研究の状況と課題

教育政策をめぐる政府間関係論
アクターに注目した政策決定過程研究
官僚機構論

しかし、経済的諸関係の教育政策規定性や国家本質論が欠落しがち 弱点

2. Society5.0 に向けた人材育成と教育制度改革

(1) 国家戦略としての科学技術・イノベーション

2020年法改正

- ・科学技術基本法 → 科学技術・イノベーション基本法
- ・振興対象に「人文科学のみに係る科学技術」及び「イノベーションの創出」を追加
- ・「科学技術基本計画」 → 「科学技術・イノベーション基本計画」

かつては、国の政策枠組みにおいて、学術に対して、人文社会科学を排除した科学技術が対置され、科学技術の国家戦略的活用が課題とされた。

今日では、人文社会科学を「科学技術」概念に取り込むことで、経済産業に奉仕する限りにおいて人文社会科学を戦略的に活用することが課題になっている。

このことについて、研究資金確保の文脈で歓迎する意見も聞かれるが、学問の自由や学術の社会的使命との矛盾が生じうることにも意識が向けられるべき。

(2) 科学技術・イノベーションの視点からの公教育制度改革

2021/8/18 総合科学技術・イノベーション会議に、教育・人材育成 WG 設置

2022/6/2 教育・人材育成 WG 「Society5.0 の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」

(5) 「パッケージ」の特徴

断片的なポンチ絵で構成 → 曖昧
重要な事柄を新奇な概念を用いて記述 検証困難

3つの柱

- 政策1 子供の特性を重視した学びの「時間」と「空間」の多様化
ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実
分野・機能ごとのレイヤー構造と社会・民間の力の活用
- 政策2 探求・STEAM教育を社会全体で支えるエコシステムの確立
探求・STEAM教育を支えるエコシステム
特異な才能のある子供が直面する困難の除去
- 政策3 文理分断からの脱却・理数系の学びに関するジェンダーギャップの解消

これらが目指すのは

- ① 既存の学校制度の解体
- ② 民間事業者による教育コンテンツの提供
- ③ 公教育の人材育成システム化
- ④ 価値・知・技術の理数系文脈での再構成 なのか？

3. 「学びの自律化・個別最適化」と「個別最適な学び」 【対立的要素】

経済産業省の「学びの自律化・個別最適化」

文部科学省の「個別最適な学び」

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を二本柱とする学校教育を「令和の日本型学校教育」と定義し、既存の学校制度の意義を強調

中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現～」(2021/4/22)

両省のズレは、教育政策決定価値に関するアクター論的研究に格好の素材を提供している。
教育学に求められているのは、

子ども・若者は人間として、また現代を生きる世代として何を学びたいのか。

日本の学校が子ども・若者を苦しめている現実をどう評価するのか。

人文社会科学の原点は人間尊重。(自然科学がそうではないという意味ではなく)

4. 人材育成 【一致する要素】

文部科学省 Society5.0 に向けた人材育成に係る大臣懇談会 新たな時代を豊かに生きる力の育成に関する省内タスクフォース「Society 5.0 に向けた人材育成 ~ 社会が変わる、学びが変わる ~」(2018/6/5)

「Society 5.0 を牽引するための鍵は、技術革新や価値創造の源となる飛躍知を発見・創造する人材と、それらの成果と社会課題をつなげ、プラットフォームをはじめとした新たなビジネスを創造する人材である」

「一握りのスーパースター」以外の人々すなわち「産業構造の目まぐるしい変化により、必要な能力・スキルが刻々と変わり続ける中で、企業に雇われない自営的就労を行う労働者には、常にスキルをアップデートし、また新たな分野のスキルを身に付けられるよう自ら学び続ける力が決定的に重要となる」

→ 二つの層に分断された人材需要に応ずる教育制度 教育を捨て、人材育成に走る

5. 若干の考察

教育のデジタル化・ICT化を、既存の公教育制度の解体をもたらしかねない学校・教育制度の包括的改革の文脈に位置づけるのか、それとも「指導の個別化」・「学習の個性化」の手段とするのか。政府内部にも深刻な緊張関係があるように見える。

他方、それらは Society5.0 に対応する人材育成を目標とし、デジタル化・ICT化を学習・教育機会の格差的分配の手段及び正当化の論拠としている点では一致している。

しかし、「政策パッケージ」からは、①これからの社会のあり方や子ども・若者が向き合うべき課題を Society5.0 という視点で/でだけ捉えることは適切か、②いま子ども・若者が直面する現実や子ども・若者の現状はどういう学習と教育を求めているのか、といった視点がすっぱり抜け落ちているのではないか。

ヒトは学習を通じて社会的存在としての人間になる。しかし、現代社会では学習は教育制度や国の教育政策に規定されている。